

第2回中野区基本構想審議会 部会（都市・防災・環境）

○日時 令和元年5月9日（木曜日）午後7:00～9:00

○会場 中野区役所7階 第9会議室

○出欠者

1 部会委員

出席者

饗庭 伸（部会長）、佐土原 聡、岡本 秀子、興梠 与利子、五味 道雄
甚野 誠一郎、鈴木 照男、吉村 芳明

2 事務局

新区役所整備課長 中村 洋

都市計画課長 安田 道孝

住宅課長（交通政策課長兼務） 三王 徹哉

まちづくり計画課長 千田 真史

野方以西担当課長 狩野 純一

まちづくり事業課長（大和町まちづくり担当課長兼務） 菊地 利幸

中野駅周辺まちづくり課長 松前 友香子

中野駅新北口駅前エリア担当課長 石井 大輔

基本構想担当課長 永見 英光

【議 事】

○饗庭部会長

すみません、皆さん。お集まりいただき、どうもありがとうございます。

本日は、中野区の基本構想審議会の都市・防災・環境部会第2回の分科会を開催したいと思います。よろしく願いいたします。次第に沿って進めたいと思いますので、よろしく願いいたします。

まず、本日出席している区の職員の紹介をお願いします。すごくたくさんいらっしゃいますね。概略で結構です。名簿がないので。

○永見基本構想担当課長

基本構想担当課長の永見と申します。それでは、区側の出席職員を紹介させていただきたいと思います。お手元の資料2をごらんいただけますでしょうか。こちら出席職員の名前が書いてあります。なお、事前にお配りした資料に一部誤植がありましたので差しかえをさせていただいておりますので、ご理解いただければと思います。

なお、今回出席している職員ですけれども、名簿は今回と次回を合わせた名簿になっておりますので、こちら名簿に名前があるけれども実際今日は来ていない職員もおりますので、ご理解いただければと思っております。

それでは、名簿の順で所属と名前ということでご紹介をします。

○中村新区役所整備課長

新区役所整備課長の中村でございます。どうぞよろしく申し上げます。

○安田都市計画課長

都市計画課長の安田でございます。よろしく願いいたします。

○三王住宅課長

住宅課長の三王です。どうぞよろしく申し上げます。

○千田まちづくり計画課長

まちづくり推進部まちづくり計画課長の千田です。よろしく申し上げます。

○狩野野方以西担当課長

野方以西担当課長の狩野です。よろしく申し上げます。

○松前中野駅周辺まちづくり課長

中野駅周辺まちづくり課長をしております松前と申します。よろしく願いいたします。

○石井中野駅新北口駅前エリア担当課長

中野駅新北口駅前エリア担当課長の石井でございます。よろしく願いいたします。

○菊地まちづくり事業課長

まちづくり事業課長の菊地と申します。よろしく願いいたします。

○永見基本構想担当課長

なお、本日は都市基盤部長も名簿には載っておりませんがご出席をしておりますので、ご了承いただければと思います。出席職員の紹介は以上でございます。

○饗庭部会長

ありがとうございました。では、今日の配付資料です。事前に配っていただいたのですか。これを説明していただきたいと思います。事務局、よろしく願いいたします。

○永見基本構想担当課長

それでは、本日の配付資料と流れをご説明させていただきたいと思っております。次第のほうを、ご覧いただきますと重点テーマについてということで3つテーマが書かれているかと思えます。今回と次回の部会におきまして、合わせて5個の重点テーマというものを設定させていただきました。そのうち3つ、本日はご審議いただきたいと思っております。全体会のときに区長から申し上げました多様性・協働・スタートアップ、そのようなことも念頭に置きながら、さまざまご審議いただければ幸いです。

それでは、資料でございますけれども、まず、資料3ということでかなりたくさん資料がございます。3-1ということで、こちらメインの資料となっておりますけれども、さまざまな中野区の現状をあらわすようなデータというものを用意させていただきました。こちら参考資料ということですので、これしか話せないというわけでは決してありませんので、参考ということでご活用いただければと思っております。

1つ目のテーマでございますが、「快適で魅力ある住環境」ということでございます。用意させていただいた資料については、民間の借家や空き家等の住宅ストックでございますとか、空き家の活用を近年さまざまやっております。また、子育て世帯の定住傾向や住宅の供給状況に関するデータでございます。

それから、公園です。中野区内の公園に関する資料もご用意をさせていただきました。こういった資料を参考にさせていただきながら、中野区によりよい住環境を実現していくための視点についてさまざまご意見をいただければと思っております。

2つ目の「世界に開かれた都市活動とにぎわいの拠点」というところです。こちらは中野駅周辺のまちづくりの事業が今進んでおります。基本構想は10年後の目指す姿を描くものでございますが、おおむねこの事業は終えるスケジュールになっております。その10年後に、中野駅周辺でどのような都市活動やにぎわいが生まれているのかと。そういった視点でご審議いただければと思っております。

参考といたしまして、産業別の売上増加のランキングということで中野四季の都市（まち）の整備などによりました影響なども表れている資料も用意してございます。

それから、商業地、地価の推移ということで、こちら四季の都市（まち）への影響などがあらわれているような資料を用意してございます。

それから、きょう最後の3点目になりますが、「地域のにぎわいの創出・再生」ということで、こちらは西武新宿線沿線まちづくり事業を中心に考えているテーマ設定でございま

す。こちらの事業は、地区によりまして事業の進捗状況などは異なってございますけれども、この事業によってそれぞれの地域のにぎわい。そういったものがどのように創出・再生されるのかという視点でご審議をいただければと思っております。

出しました資料としましては、ご存知の方も多いかと思っておりますけれども、踏切問題や西武新宿線沿線の状況であったり期成同盟の取り組み。また立体交差事業、沿線まちづくりの概要、人口の推移であったりとか各駅の乗降客数の推移。また、沿線の住民のまちづくりに関する意識というような資料を用意させていただきました。

次回、「災害に強い都市」、それから、「地球にやさしいライフスタイル」というテーマがございますけれども、これは次回ということで、また改めて次回説明させていただきたいと思っております。

さらに、資料3-2から続きますが、中野区の公園マップ。それから、中野区の公園という面積などが書かれている資料。続いて、資料3-4ということで、現在、中野区で実施しているまちづくりの事業がプロットされている資料。それから、中野駅周辺まちづくりに関する資料です。続いて、西武新宿線沿線の沼袋と新井薬師前駅の周辺に関する資料を用意しています。

続いて、人口の近年の推移、今後の推計などもあらわした資料を、資料3-8、3-9、3-10、3-11ということで用意をさせていただいております。

それから、資料4でございますが、区で作成した当初予算の概要という資料がございますけれども、こちらの資料から、今後5年間程度の財政の内訳なども書かれた資料ということで抜粋をさせていただきました。

それから、審議の参考になればということで、カラーの地図が描かれている資料と、人口に関する資料も用意をしておりますので、参考にしていただければと思います。

簡単ではございますが、以上でございます。

○饗庭部会長

ありがとうございました。では、今回は、次第に3テーマありますけれども、「快適で魅力ある住環境」についてということと、「世界に開かれた都市活動とにぎわいの拠点」というのと、「地域のにぎわいの創出・再生」という、その3点を少し審議したいということでございますので、今回はその3つに絞るということで、よろしゅうございますでしょうか。

災害の話と地球にやさしいライフスタイルは次回ということでございますので、きょうは、この3つについて少し重点的に意見交換と思っております。よろしくお願ひいたしま

す。

それで、時間を計算いたしましたら、これ9時に終わらなくてはならない会議でございます。今、7時大体10分なので、1テーマ35分しかございませんので、簡単に言うと深い議論はできないと思います。ですので、日ごろ皆様が感じておられることとかをこのテーマに関連づけて少し問題提起をしていただくというような、そんな感じでお話をいただければよろしいかなと思います。ちょっと時間がないので多少言いつ放しになってしまうかもしれませんが、まずはたくさん出していただくというようなことが、きょうの趣旨ということでございますので、よろしく願いいたします。

それで、早速ですけれども、1点目の「快適で魅力ある住環境」ということでございます。資料3-1の頭のほうに何枚か関連するスライドをつけていただいていますけれども、住宅の周りのことを住環境と言いますけれども、そのこととか。あとは、最近問題になっている空き家問題とか。そういったことについて、あるいは公園ですか。そういったことについての審議ということになろうかなと思います。

さあ、皆さんと言って何か出る感じですか。何か結構むちゃぶりだなと思いながら司会をしているのですけれども。

○鈴木委員

間違いなくむちゃぶりは、むちゃぶりですね。

○饗庭部会長

むちゃぶりですよ。資料は手元にあって、何となく読んでいただいたくらいですか。どこに何があるかくらいはわかっている感じがですか。そうでもないですか。

○鈴木委員

さらっと。要は、テーマを先にもらっていれば、もう少しそれに向かって読みふけられたかなというのもちよっとあるのです。

○饗庭部会長

テーマが伝わってなかったのですね。わかりました。ここで、ぱっとしゃべれるのは、いつもいいかげんなことをしゃべっている大学の先生ぐらいしかおりませんので、ちょっと数分読み込んで考える時間をつくらせていただければよろしいですか。このテーマについてちょっと資料を読み込んでいただいて、ここで確かめておきたい質問と、あとは、ふだんこういうことではないかと、中野区はこういうことを目指すべきではないかというようなことをお考えいただくことにしたいと思います。3分ほどはかっていますので、皆さん

考えをとめていただけますでしょうか。まとめようにポストイットを用意しておきましたので、もし、これを使ったほうが考えやすい方はこれを使っていただいて結構です。ちょっと3分ほどシンキングタイムをつくりますので、よろしく願いいたします。

(資料読み込み)

○饗庭部会長

あっという間に3分がたってしまいましたけれども、どなたか口火を切っていただいて、あとは関連することをお話いただければなど。30分ほどやらせていただきたいと思うのですけれども、いかがでしょうか。

○鈴木委員

いいですか。

○饗庭部会長

では、鈴木委員からお願いいたします。

○鈴木委員

私、ちょっとこの用意された資料と、なぜこういうタイトルの資料なのかよく理解できないのですが、私が日ごろ思っていることを申し上げたいと思います。

中野区は道路が狭いのです。狭隘道路がたくさんありまして。一応、建てかえなんかするときには、ちゃんと中心線から2メートルさがってとはなっているのですが、それがきちんと守られていない状況が現にある。したがって、やっぱり魅力ある住環境をつくるには、まず道路がきちんと整備されていなければいけないと思う。

それから、道路が下がっても電柱はそのまま残っているのです。したがって、車の交通の障害になって、結局快適なまちになっていないのです。だから、やっぱり電柱を移設できるか、あるいは電柱を地下化するか。そういうのが必要なのだらうと思います。

いつも私は思うのですけれども、中野区は公園が少ないですね。この資料にもありませんけれども。私の住んでいる東中野はほとんど公園がないです。そういったときに、公園というのは、地域の人たちが集まって、例えば防災訓練をするにしても何にしてもそこでコミュニティ、話ができる、顔が合わせられるというのがあるのです。したがって、公園をどうしたらつくれるか。なかなか大変なのですけれども、空き家の持ち主にしばらく使い道がないのだったら、それを取り壊してもらってポケットパークみたいな使い方で、みんなで何か会った人と話ができるとか、そういうアイデアをやってもいいのではないかと考えています。

それと、東中野の地区、昔は皆さん協定をする地域協定なんかがあったのですが、だんだんやはり相続が発生すると細分化されざるを得ない。土地の細分化。細分化がされてしまいますと、やはり環境が悪くなっていくというお話で、細分化を防止するための何か手だてというものを考えていかなければいけないかと。それをすることによって、どこでも言われていることではありますけれども、中野らしい何か特別な魅力をつくり出すことができるのではないかと思います。まず、道路だと思います。

○饗庭部会長

ありがとうございます。道路と公園と空き家を使ったという解釈ですね。

では、五味委員、お願いいたします。

○五味委員

区内の町会の役員の一員です。私は、東京都の建築士事務協会の会長をやってきました、中野区だけではなくて、ほかの23区全て、こういう都市の問題が、みんな地域性があるで事情が違ふんですけども、まず、驚いているのは、鈴木さんが言ったとおり、何十年たっても、公園の数が少ない。それから道路が狭い。そういうことを、今回、基本条項って平成17年に何かできたものがあって、それをまたここで区長がかかわったから見直すということでしょうか。中野は23区として、東京都の中で、私も建築士事務所協会の会長をやっていたから。まず難しくてしょうがない。中野にいて最低ライン。公園数が少ない。今回区民会議の委員として人口問題と空き家問題などいろいろ話していますが、心配した以上に問題意識を持っておられます。安心しました。

前の区長がひとつよかったのは、そこにある四季の森ですか。あのとき、私は明治大学の代表の選手でいまして、あのときは、隣の東建のビルは鹿島デザインでやったのです。それから平成帝京大学は、日本設計のベテランが来てやった。ですから、あれをつくるときに、要するに、中野は道路が狭いし公園が狭いから、模範となるものをつくろうということを取り込んだわけです。ここに松前さんがおられますけど、松前さんはそのとおりちゃんとリーダーシップをやってくれました。

今度の、要するに、駅の再開発、サンプルを含めてというところに委員は30名いるんですけど、委員たりとも公園が狭いということを誰も認識をしていない。非常にこれはまずいと思います。23区中最低ですこれは。ですから、そういう都市でいいのかと。

また、この次に委員会が開かれると、さっき、司会から言われたんですけど、次は防災の問題だと言われたのです。そういうトータルでいろいろもの考えないと、この10年

計画か何か知りませんが、せつかく私も、この中野区へ来て設計事務所を始めて5年たちますけど、他区に比べてもっとしっかり計画を立てるべきです。

今、建築家協会だとか、我々の専門家団体がやっていますが、さんざん言っても、区民会議執行部の区の担当者の話が区民会議委員にはよく判らない。それは、中野区だけにしかないからそういうことになってしまう。それは、やっぱりよその区へ行って、あるいは、東京都庁の都市計画審議会だとかそういうところが気になって、他の区ではどのようにしているかということをよく参考にしませんとまずいと思う。以上です。

○饗庭部会長

ありがとうございました。ほかにいかがでしょうか。吉村委員、お願いします。

○吉村委員

先にテーマが出ておりましたので、快適って一体何かというところをちょっと考えまして、今ですと、ある程度整備されてきれいになることはいいのかもしれないですけども、ご存じのように、中野五丁目あたりのごちゃごちゃとしたところの路地とか、迷宮のようになっているところも心地よいわけですから、そういう意味で快適という言葉から単純に整備してしまうわけではなくて、どうやって自分のまちとしてとか中野としてのよさというものを残していけるか、守っていけるかということが、多分これから先の価値になってくるし、それが世界に開かれるかどうかわかりませんが、同じようなものではなくて中野が持っているものをどう次につながっていくかということだと思っております。それは文化なんかもあるかもしれません。

特に、この快適という言葉であれば、多分、毎年4月に桜のことに對しては、皆さん方相当前から気持ちが高ぶっていて、いつ咲くのだろうなということになっているのではないかなと思っております。ただ、一方では、この間、東中野の桜を切る切らないみたいな話になってくるわけです。桜を切る切らないということは、当然それは寿命があるわけですから、60年というのもソメイヨシノなんかはそうなのですよ。もっとすごい桜は百年単位のものがあるかも知れませんが、一斉に咲くソメイヨシノは大体60年くらいになるか。もうちょっとこの一方的にまちづくりとか、それから、環境を行政に任せるのではなくてどうやって区民自体が入っていけるか。つまり、それは住民参加ということでワークショップをやるわけではなくて、つまり私たちが桜を植えますよと。自分が生まれたときだとか、例えば、60年たって還暦になったら名前をつけてやるというような、何かまちづくりの仕組みみたいなものができると、よりこの自分たちの魅力のあるまちになっ

ていくということがあるのではないかと思うのです。

そもそもそういうことのプログラムとか仕組みをつくらないと、単純に基本構想はこうでございまして今つくりましょうねと言っているのではなくて、実際にどうするのだと。区民がアクションを起こせるのだと。それは何かというと、何かの団体とかグループがやるのではなく、1人1人がかかわれるようなことの中で、このまちはやっぱり快適でいいね、魅力的だねということが思えるようなことまでいかないと、そろそろ、いつも書かれているような文章を読んでまた同じようなことだねとか、できないねとかいうものになってしまわないこともぜひつくりたいですね。

そのためには、プログラムだとかエリアのマネジメントみたいなものを含めて、もうちょっとそれぞれが丁寧にやっていく必要があって、それは多分、行政だけではなかなかできないという話になると思うのです。それを区のレベルとか区民のレベルとか民間のレベルがどう組み合わせるかということをしていくような、何か方向性が基本構想の中で打ち出せていけば、中野としてほかの区とは違うものができるのではないかと。

でも、先駆的なことができればいいかもしれないけど、何かお金的なものはどこからもってくるかも、まさによくある実証実験みたいなことをしながらまちを変えていくとか。それから、さっき五味先生がおっしゃるように、公園とか広場というものの大きさ自体がないのだけど、それは、いろいろなところがつながっていく広場があるということを使い方によって、そのまちがもっともっとよくなっていくのだろうと思います。

ですから、先ほど言った魅力というのは一体どういうもので、このまちにとって私が好きだよねというのが、きれいなだけではないと、使い方がうまくできるのだよねみたいなことがないと、この快適とか魅力ということにつながらないのではないかと考えています。

もう1点は、なかなか中野区もおもしろいところなので、いろいろな写真のシーンだとか映画のシーンとか、そういうことになっていくことでの魅力化みたいなものもあって、いわゆる、フィルムコミッションでありますけれども、ああいったことに何か出てくることもあるのかなと思います。ですから、そういう意味では、何かそこで表現できるか想像するみたいなことにつなげていくようなことが、できれば公共空間のどこかの空き地とか道路でもいいですね。パンフレットでも構わないと思うのですけれども、まだ実証実験なんかをしながら、何か新しい使い方のことをやっていくようなまちづくりができてくると、みんな、そこに何となく気持ちが入っていくのではないかとと思います。

唯一、このゴールデンウイークなんかを見ていると、四季の森なんかは、やはり皆さ

ん、芝生になっているところに集まってくるのです。狭いところでも本当にくっつき合っているわけです。平和の森もかつてはそういうことがあったわけですけど、今そうではなくなりつつあります。やはり何もつくらないで本当に芝生だけだよねぐらいのほうが、管理は大変かもしれないけど、その中で自分たちが使いこなしていくような、あまりかっちりつくらないで、使い方に委ねるようなことができてくると、自分たちの魅力ある快適なものになっていくのではないかなということにはちょっと思います。以上です。

○饗庭部会長

ありがとうございました。ほかの方はいかがでしょうか。

○興梠委員

今のご発言から、ちょっとまた観点が違ってしまっているのですが、自分なりに快適で魅力ある住環境をどうやって実現していくのかと考えました。具体的なことはここでは話さないというお話ではあったのですが、まず1つは、安全安心に歩ける歩行者空間の整備が、自分の中では重要だと思いました。それも、地域住民との協働でつくり上げていくものではないかと思いました。まちの現状や改善が必要な声を地域住民から聞いて、反映された安全安心に歩ける歩行者空間が整備され、お年寄りも子育て世帯も安心して歩ける場所を作り上げることが重要と思いました。

先ほどお話があったように、電柱を地中化するというのもそれにつながると思います。

もう1つが、住みたいとか住み続けたいと思える観点かと思いました。1つは、公共の交通が利用しやすいようなまちづくり。バスも含めてですけどもそういった交通網。その交通にアクセスするための、先ほどの道もそれには続いてしまうのですが、そういったことかなと思いました。

もう1つが、この資料にもあります子育て世代の定住をどう図っていくかという観点です。子育て世帯がまずは住みやすいと思えるような魅力ある住環境ということになると、空き家の活用などで、例えば、子育て世帯については安価で提供するような施策ですとか、なかなか東京都内の中で、中野は住宅の地価も含めて高いところですので、そこに何か定住につながるような施策を、もう少し区としてできていかないかという思いでこのテーマについては考えました。

○饗庭部会長

ありがとうございます。安全安心の歩行者空間という話と住宅の話ですか。交通網に支えられたいい住宅をつくって子育て世帯の定住を。そういうことだったかと思います。

いかがでしょうか。では甚野さん、よろしくお願いします。

○甚野委員

今の興梠さんのお話とも少しかぶるところがあるのですが、若年の定住施策のところを拡充しないとまずいかなと思いました。18歳から27歳のところ、コーホート転換のところを見てもらうと、流入超過とかはしているのですけれども、未就学児とそれを育てているであろう30代、40代のところが大きく減っているところがある。ここのところをしっかりと伸ばしていくことができないと中野区はやばそうだなと。

自分は子育て世代であるのですけれども、中野を離れていく、中野に住み続けたい理由は何かといったときに、子どもベースで考えると、やはり公園の拡充であるとか遊び場であるとかそういったところが重要出ると思う。あとは学校。小学校、中学校、幼稚園。ここが、しっかり地域と安心安全な道路で歩いて行けるといったつながりが必要。学校の統廃合を今、中野区として進めているところではありますが、学校跡地を公園に活用するであるとか、地域コミュニティの核となるようなところにするとか定住化施策とか、公民館の活用も含め地域コミュニティで使ってもらえるような施設等を検討するとか。今核家族化が進んでいる中でも、マンション世帯で人とのつながりがなくなっていく中で、マンションと地域とのつながりができていくようなコミュニティが形成されていくと、子どもを任せてもいいようなまちができてくるのかなと思いました。

あとは、道路の問題。電柱であるとか狭小であるとかありましたし、バスに関しても、僕の住んでいる鷲宮のあたりは、中野に出るバスの路線がなくて、途中で乗り継がなければいけないという感じになっている。交通結線をつなぐとか、中野全体で1つの輪っかができるといいのかなと思いました。以上です。

○饗庭部会長

ありがとうございます。若年層の定住の話と道路交通網の話だと思います。

○岡本委員

済みません。第1回目、ちょっと体調を崩して欠席させていただいて、申しわけありません。

○饗庭部会長

そうでした。済みません。失礼しました。

○岡本委員

私は町会長になってもう10年たつのですが、中野生まれ育ちなのです。ただ、小・中・

高、大学と地元の学校は全然行ってないのです、ちょっと外に行ってしまった。大学を卒業して仕事の関係で、今、仕事をしております。23区、東京のほとんどを仕事で回ってきたことがあるのですが、中野区と大体同じ大きさの渋谷、豊島関係。中野みたいな環境と全く違いますよね。商店なり環境が全く、豊島区も渋谷区も違う。そのの中の中野区は、私は生まれ育ちだからというのではなくて、やっぱりすばらしいまちかなと思っているのです。

ただ、うちの町会も、この10年間町会長をやっている半分の5年の前半は、全部一戸建てだったのです、うちの町会は。それが、今1,600所帯、後半5年間はマンションだらけ。住民がふえて、やはり住環境が全然変わったのです、そういう部分では。

ただ、大久保通りから青梅街道に行く間がうちの町会なのですが、小淀西町会というところなのですが、神田川に沿った、昔、伏見宮殿下の皇族の方の住居の跡を分割して売って、それは大正時代ですが。それから、山岡鉄舟道場があったりとかで、大変いろいろなところが、住環境はよかったですけれども、今もいいですけど。

ただ、この5年間、やっぱり一戸建てを、ご両親が亡くなってしまうとみんなやっぱり売られてしまう。相続ができなくて。それで、みんなやっぱりマンションをお建てになって。その中には、大きなマンションと小さなマンションがあって環境も随分変わっていますけれども、アパートをお建てになったところが、去年、今年に入って、いわゆるワンルームの小さなアパートで、今年になって3人孤独死を出しました。そのたび町会長は立ち会わなくてはならなくて、行かなくてはならないのですが、そういう問題と、それから、これからやるのでしょうか、空き家の問題。空き家も、やはりご両親が亡くなってしまうと相続ができなくて、区に問い合わせてもなかなか空き家の問題がまだ解決しないところが、うちの町内にも幾つかあります。

ただ、前の区長のとくに、私の隣の小淀公園というのがございます。小淀公園というのは一軒家の大きなお家だったのですが、それを小淀区で買っていただいて公園にさせていただいて、ここ何年間は本当にすばらしい地域活動がそこでやらせていただいていると。

それからもう1つは、さっき安心安全という話が出ましたけれども、せっかくすばらしい公園を区で運営していただいているのですが、やっぱり大きな大木をどんどん植えていただいて、ここの5、6年の間、物すごく成長して。せっかく街路灯があるのに、その木が茂ったことによって街路灯というか、あれが全然光が、木のあれでなくなってしまうと。それを区のほうにお願いして枝を切ってくださいと、全然、もう電柱の明かりが全く機能

していませんと言うと、「実は会長、木は切る時期が決まっていますから切れません」という返事が来たり、区とのいろいろな連携がもうちょっとうまくいくといいなということ。そういうことで何か魅力のある住環境になっていくのかというのは、やっぱり地域のほうでもしっかりと考えていかなければ、これは。

さっき、どなたかおっしゃったように、区だけに任せている問題ではないと思います。住んでいる人たちが本気になって、どうしたらいい住環境を築けるかというのは、これはずっと課題ではないかと思っております。長くなって済みません。以上です。

○饗庭部会長

ありがとうございました。あと、7分くらい残っております。では、佐土原さん。

○佐土原委員

私は、ちょっと土地勘がないのでなかなか全体のことが理解できていないのですけれども、すごく縦に長い中野区ですので、それぞれの場所のいろいろな特徴というか特性があると思うのです。基本構想という、共通の何かを目標として立てるのかということがあって、少しそこはそぐわない部分あるかもしれないですけど、これだけ地形的に、地理的に縦長になっていると、住環境というときに、その周辺の区まで含めた住環境であったり、真ん中のほうは中野区のまちということで、人によって、中野区そのものというよりは、周辺との環境も考えながら環境をつくっていかないと、なかなかそこに住んでいる人の絶対的な環境にならないのではないかと思います。あまりこの区の境にこだわり過ぎない捉え方が必要なかと思っているのと、それから、結構分断するような道路だったり鉄道だったりそういうものがありますから、住んでいる人にとっての領域がどうなっているのかということ踏まえながら、住環境全体としてどうつくっていくのかということを考えていかなければいけないのではないかと思います。

公園がかなり中央の、中野駅の北側のところに豊かな公園がたくさんあって、このあたりに住んでいる方は公園を享受できているのだと思うのですが、北のほうとか南のほうとか行きますとかなり遠くなっているという、相当違いがあるのかなと思いたので、捉え方としてそういうことが重要かと思いました。

それから、もう1つはいろいろ昔の姿が変わってきているところもあるかと思うのですが、歴史的なものとか、あるいは文化の蓄積とかそういうもので残っている、あるいは、核になるようなところがどういうところにあるのかということも重要な要因かなと思いますので、そういうものも見ながら、どう環境をつくっていくかということを考えてい

く必要があるのではないかと思います。以上です。

○饗庭部会長

ありがとうございました。さすがに皆さん。幅広い意見をいただけたのではないかと思います。

ちょっと私が伺っていて、少し大事なところかと思ったのは、多分道路が狭いという話とか公園が足りないという話は、最下位なのは間違いがなくて、気の持ちようで心地いいと言えるかもしれないけれども、もうちょっとあったほうがいいのではないかと私も思いますので。それはお金をそこにある程度法的な財源をどれくらい投入できるかという話で決まってくるのかと思います。

ただ、それだと恐らく50年間中野は変わらなかったというお話だったので、多分無理だと思われそうです。だから、鈴木委員がおっしゃったみたいに、空き家とかが出てきたときに、所有者と話を付けて早めに壊してもらって、使わない間は広場にしておくとかいうようなことを、3年とか5年だけでもいいから、そういうことができたりしていくと、割と環境自体は少しよくなるのかなと思って聞いておりました。

せっかく空き家が政策の課題になってきているところですので、そういう空き家を使って公共空間を暫定的に確保していく。恐らくそれは区があまりできることではないので、できれば地域力というか地域の方々が、ふだんの関係の中で空き家の所有者なんかにお話をし、話をつけるみたいなことができるといういろいろ進むのではないかなと、そんな感想を持ちました。公共空間についてはそういうことです。

あと、もう1つが、若年層が足りないというのがそのとおりでございまして、一方で、今、岡本委員が大きい屋敷がなくなって小さい家が建ってしまうという話があって、実はこれ反対なのです。大きいお屋敷が壊れて小さい家ができるとう若い人が入ってくるのです。マンションができると若い人が入ってくる。ワンルームマンションができると若い人が入ってくるということなので、結構難しい問題だと思うのです。

若者が足りないという甚野さんと興梠さんがおっしゃいました、若い世代を集めないとおっしゃいましたけれども、若い世代が住むためには、中野に何か農地がたくさんあるわけではないので、やっぱりもともとあったいい環境を少し改造してとか改善するような形で大きいマンションができたりということにならざるを得ないと思うので、どちらが大事かというあたりは、ここで結論は出ないと思うのですけれども、とても悩ましい問題としてあるというのが私なりの整理です。

○五味委員

いいですか、発言。

○饗庭部会長

はい、どうぞ。

○五味委員

今おっしゃったようなことを、やっぱりせつかく基本構想という10年ものを目指していると思います。実は今、空き家の問題が出ましたけど、実際問題として、この委員会ではこうやるべきだということを提案するべきだと思うのです。空き家がこうだから、今現状がこうだから、相続の問題いろいろあるけどという感想ではなくて、実際にやらなければいけない。

というのは、去年まで私、空き家問題の審査会の委員だったのです。そのとき、早稲田大学の座長が言われた。結局空き家の問題というのは、中野区が一番多いのです。豊島、大田に次いで中野区が一番多い、空き家が。それは現実の問題ですから。現実の問題は、さっきどなたか言ったように、空き家があればそれをどう活用していくかという現実問題としていかないと。空き家を、道路の幅員が狭いから、空き家はかなりありますから、少しずつその部分だけでもいいから道路を広くしようとか具体的な提案です。そういうものに結びませんと、今日せつかく委員会をやって論議だけで、実際にどうやろうかということまでこの委員会でやりませんと、全然成果がないと思います。

○饗庭部会長

わかりました。ごもつともだと思います。どうしましょう。とりあえず今日の話はいろいろ出たのを事務局が全部記録していて、それをまとめてこうしようという、この基本構想の文書の案が出てくるわけですね。

○永見基本構想担当課長 はい。

○饗庭部会長

ただ、そのときになるべく具体的にこうしようとして書いていただけますか。それがいいですよ、皆さん。

○鈴木委員 そうですね。

○饗庭部会長 なるべく具体的な何か。

○鈴木委員

もう1つ発言いいですか。先ほどのワンルームマンションとか若年層が入ってくるのに

必要だよという話は確かにそうです。そこともう1つあるのが、外国人世帯とかそういうような環境とか、地域とのコミュニティになかなか入ってこられない人たちがあそこに住んでしまって、誰が住んでいるのかわからなくて怖いというようなことも実は起こっていたりとか。

あと、建てるマンションがあまりに奇抜な色だったりとか、周りの環境になじめないような色が建っていったりというのが、現状として驚宮のほうでは結構上がってきているのです。それは地域の中でも問題にはなっていて、条例で何とかできないのなんて話もありつつも、ただ、人が入ってくることによって税収が上がるのは、税の問題でそうなのだろうけれども、ただ長いこと見たときに、子育て世代がそこに長く住んで、中野がいいのだからよって言って、ずっと住み続けて地域を守ってくださるとか、地域を回していける人たちがどんどんふえていったら、多分中野はもっといいまちに変わっていくのだろうなと思うので、そのところを何か考えて、快適で魅力ある住環境といったところが、先ほど委員の方が言われたように、自分たちが一緒に作っていける環境が醸成されればいいのかと思います。以上です。

○饗庭部会長

ちょっとまとめ方の話に、今の話も含めて。最終的に基本構想の文章を書いていくときに、現状認識的な文章では困るということ、あと玉虫色も困りますよね。両論併記みたいな感じで、これもこれもあるよというのは困るので、少し踏み込んでこうしていきましょうというようなことをぎりぎりの具体性を持って書いていただいて、それを次の次くらいに出てくるのですよね。

○永見基本構想担当課長

そうですね。それぞれの回で出していただいたものがありますので、それをまとめて、また皆さんにご案内を。

○饗庭部会長

今日のまとめは次回になりますか、それとも、今日のまとめは2回後ですか。

○永見基本構想担当課長

次回が2週間後なので。ある程度概要的な形でまとめることはできるかと思います。

○饗庭部会長

何回か多分こちらで見させていただいて、もうちょっと具体的に書こうということ、それを見ながら検討していったほうがよろしいかなと思うので、できれば次回、今日のま

とめのこんな文章を書こうと思っていますということを出していただいて。それでもう少し書き込めるでしょうか、もっとはつきり切りましょうとかまとめていただく、こちらのほうで審議させていただくということでもいいですか。

○永見基本構想担当課長

答申という形でいただく形ですので、答申になる原型みたいなものというイメージでしょうか。

○饗庭部会長

それはそうでしょうね。最終的にはこちらの答申なのですが、答申案を我々が書くわけではないでしょう。諮るのでしたっけ、これは。

○永見基本構想担当課長

皆さんのご意見をこちらでまとめさせていただく考えです。

○饗庭部会長

そうですね。なので、事務局側から一度戻ってきたやつをもう一度ここで、我々の答申として手を入れるというようなことでいきたいと思いますので、そのときは、本当に使えない基本構想ってだめだと思いますので、ぜひ実用的なやつというか、前に進めるやつでいきたいなど、そんなことを思います。

済みません。時間が本当にタイトなのですけれども、1つ目の「快適で魅力ある住環境」は、一端ここで切らせていただいて、2つ目の「世界に開かれた都市活動とにぎわいの拠点」というあたりにいきたいと思いますが、これは中野の駅前の話がかなりメインディッシュになってくるのではないかなというようなテーマだと思うのです。どうでしょうか、先ほどみたいに1、2分、大分温まってきたと思いますが、1分くらいちょっと考える時間をつくってみましょうか。

ちょっと1分ほど、また資料を読み込んでいただいて、資料をちらちら見ていただいて、こういうことではないかということを考えていただくことにしたいと思います。よろしくお願いたします。

(資料読み込み)

○饗庭部会長

1分少々経過しましたが、では、どなたかから。まとまった方からまた口火を切っていただければと思いますけれども、いかがでしょうか。五味委員、お願いします。

○五味委員

これ、私、四季の都市（まち）のときに、明大の選手だったのです。隣が東建ですね。これは、やっぱり鹿島デザインが麒麟という企業体を集めることが、これは麒麟ビールの大命題だったのです。おかげで、麒麟が中野にあるということになった。日本のビールというのは、かなり海外でも売れ行きがいいのです。ですから、そういうこともあるということ。

それから、もう1個、新井町に宮坂醸造がありますけれども、あれも世界に冠たる日本酒の7号酵母というのを持っていますから、そういう意味では、世界的に知れ渡った酒造メーカーがいるということです。

それから、もう1個。四季の森をつくったときに、そのつくった後をどうしようかということは、これは産学一体の土地ですから、産学一体でどうしようかと明治大学は考えて、明治大学はあそこに「日本学科」という、漠然としてどういう学科か内容がわからないという学科をつくった。ですけど、そこはやっぱり国際派が受験します。

それから、早稲田大学はみごとに海外留学生を中野キャンパスというところで。それが、一番中野が、ある意味では国際化しているという原点があると思うのです。あと、いろいろ民間の産業にしても、ブロードウェイの中にあるおもちゃの会社も、それは外国からおもちゃを搬入するという実際の産業メーカーがあります。そういうことがありますから、今、どのようにそれを活用してやるかということが、ちゃんとやらなければなど。

今の区長はどう考えているのかは知りませんが、要するに、あそこで明治大学と平成帝京ですか。それから早稲田のあれが入って、みんな国際的な学科が幾つもできていますから、英語、産学共同といいますか、やっぱり行政側がリーダーシップを取ってもらって、せっかく産学の共同都市ができたわけですから、もうちょっと3校がしっかりしていただいて横の連絡を取るというか、国際派の学科がいっぱいあるわけですから、それを活用するということが必要かと思います。

○饗庭部会長

ありがとうございました。ほかはいかがでしょうか。

○鈴木委員

いいでしょうか。今の中野駅というか中野区役所とサンプラザのことなんかが中心になって、残りの部分としてはそこが大きな課題だと思うのですけれども。やはり先ほど吉村さんがおっしゃっていた、空間の使い方をみんなで考えるというのが、私もそのとおりで思うのです。中野区は公園が少ないわけですから、都市化された公園の中にあって、中

野駅の前に空地があるというのは、それはそれなりの効果があると思っています。その空間はどのように使われるか、あまりこちらで規制するような形をつくってしまうのではなくて、何しろ空間がある。その空間で何をしますか、何をコミュニティの活動をしますかというものがあってもいいのではないかという意味で、単なる交通広場ではなくて、公園というか空地が必要だと思っています。

それと、もう1つ。先ほども五味さんがおっしゃったように、中野駅に、東中野もそうなのですが、いろいろな芸能だとか芸術があるのです、ぽつぽつと。それらのネットワークがうまくできていないのです。だから、みんな知らないのです。1つ1つが単体でPR活動をやっているのですけれども、それをうまくネットワークを組み合わせると世界に冠たるいろいろなことができるのではないかと私は思っている。ですから、芸術、芸能のネットワークづくりを行う。ソフトの部分を大事にしたほうがいいのではないかと考えています。以上です。

○饗庭部会長

ありがとうございました。いろいろネタが出てきておもしろいですね。ほかはいかがでしょうか。

○興梠委員

私自身は、地域に根づく交流の場とか行事の継承・発展をしていって、その魅力を何とか外へ発信していくということを強く区として推進していただけたらなと思います。すでに区では、ナカノさんをつくって中野の魅力を代弁するような形のキャラクターも出現させていますが、ネットを通じて、特にSNSを活用して、これだけいいものがあるのだということを魅力的に伝えて外に発信していくことで集客するのかなと思っています。

ちょっと瑣末な話なのですが、うちの松が丘片山町会では、3年前くらいから国際交流協会のほうにお声がけをして、盆踊りのときに地域に住んでいらっしゃる海外の留学生の方を招待しています。地元の伝統と言うとおおげさですが、日本の文化の1つをそこで知っていただくことによって、次にまた翌年留学に来た人たちにそれが伝わって、今年は去年の倍くらいの方たちが、留学生の方たちが参加してくださいました。それはすごく小さいレベルなのですが、それがもっと大きい形でたくさん他の方たちを呼び寄せられる口コミのような情報発信ができないかなと思いました。以上です。

○饗庭部会長

ありがとうございました。では、佐土原先生。

○佐土原委員

私も全く同意見で、情報発信と言おうかと思っていたのですが、私は横浜にいるものですから、なかなか東京でたくさんの拠点があって、そういう中で、今回、中野区の駅前でこの拠点がどんな状況か初めてこの数字を見て非常に驚きました。この4年間で、医療・福祉とかが10倍以上になっているとか、そういったものを含めて、ものすごくこういう経済的な波及効果があるということに驚きました。

こういう状況が、やはりほかの地域にあまり知られていないのではないかと思いますので、まず、こういった状況をしっかり情報発信して知っていただくということがすごく重要だと思うこと、それから、東京の都心のほうでもたくさんの拠点が今、どんどんできてきている中で、この中野の拠点はどういう特色があるのか、どういう人たちにこれからどんどん来てもらっていろいろな活動をしてほしいのかというターゲットを明確にして、そういうところに発信していくということで活力をどんどん高めていくことが必要かなと思いました。以上です。

○饗庭部会長

ほかにかがででしょうか。吉村さん、お願いします。

○吉村委員

なかなか世界に開くというところがよくわからないのですが、来ていただいていることはあるのでしょうか、単純に私はこの中野での暮らしみたいなどの生活文化みたいなものですか、それがどれだけ共感されているかということとか、あとは、先ほどまんだらけがあるということもあったりするようなことも出てくるのだなと思います。

その中で、これから先、ここのまちとして、それから価値としてというものを確立するとか、それをあえてそうするかどうかわからないのですが、中野というのはどういうこととして思われているかというのをもう一回ちょっと分析する必要があると思うし、それから、これは全てにおいて出てくるかもしれないですけど、中野は割と懐が広いとか受けとめてくれるとか、何か割と育ってきた人たちが多くて、そこからどこかへ巣立って行っているということがあると思うのです。

そういう意味では、養育じゃないけど、人を育てるとかいろいろなものを育てていくよという懐の広さが中野の中にあって、それは1つのものをやるのではなくて、いろいろなものをうまく入れ込んで作り上げてくれていることもあるのかなという気がしています。そういう意味では、ここに来るとほっとするとか楽しいということであったり、それは外

国の人ではなくても、私たちもそう思っているわけですから、そういう懐の広さみたいなところの大切さというのがあるのかなと思っております。

あと、にぎわいという言葉というのは、確かに2万人に増えて、相当なお昼の状況なんかも見ると、これはランチ難民もたくさんいるねという話になってきたり、一方では、四季の森のところなんかでは、フードカーが来てやってくれているというマネジメントもすごくおもしろいことだと思います。都心でもやっているようなところが声をかけて。ちょっと偏りのメニューが多いのですが、もうちょっと幅広くやってくれるといいのですが。でも、何となくそれで車が来てやっていると、にぎわいの感じがするし、それから、お店の先でやっているようなバーベキューなんかも手軽に行けてというあたりで、特に拠点的にはあるのかもしれませんが。そういう意味では、中野周辺の人が四季の森と、それから、先ほど言った五丁目あたりの新しさと古さみたいなところをバランスみたいなところが両方あることよっての意味があって、それで選択もできるということかもしれません。1,000店以上の飲食店があつて、毎日行っても3年くらいかかるみたいな。そうすると、相当なことでまた変わってきますから、いつでも行ける、初めて行くところがたくさんあるみたいなことになってくるというのも1つの部分かもしれない。そういう意味でのおもしろさというのはすごくよくて。

さっきのフィルムコミッションと言ったのは、例のアメリカ人家族でしたか。東京に来て、中野に住まわれて映画をするしないというのが何かありましたよね。あれが、いつになったらロケするのか知らないですけど、話がたち消えなのかわかりませんが、何かそういうようなものをうまく溶け込むというか、抱え込むようなまちというような感じがするので、日本人であろうとインターナショナルの方々も何となく居心地がいいということになるのかということは思っています。

○五味委員 多様性があるわけね。

○吉村委員 ええ。

○五味委員 中野。

○吉村委員

そうです。どのように変わっていくというか。決して1つではないという感じがします。

あと、アール・ブリュットなんかもやはりベースもあるということは、芸術的なところもすごいし、さっきのあれですよ。梅若のお能なんか昔からあるということは、伝統文化があるということですよ。ですから、今のカルチャーとしてはサブカルチャー的な

のでしょうか、500年くらいたったら、それが伝統文化になるかもしれない。かつてのお能がサブカルチャー的なところが、500年たってこうなっているのですから。そのような時代を考えてみると、可能性のすごく高いまちであるという意識はします。

○饗庭部会長

ありがとうございます。甚野さん、何もありませんか。

○甚野委員

大体皆さん出し切ったなという感じはあるのですが、先ほどサブカル的なところでブロードウェイであるとか、サンモールであるとか。世界に開かれた都市活動とにぎわいになると、外国人の人が来てというイメージが出てくるので、そういったところを見て歩くのが多いのかなと思いました。かと言って、中野五丁目あたりの飲み屋街とかに行けば、日本人だけではなくて外国の方もちょい飲みで入っていたりとかするので、今後栄えてくるのは、このあたり一帯としてはいいのかなとは思っています。

四季の森の活用について、学校もあったり、いろいろなイベントをやられていたり、いろいろなことをやられているので、そういうものも継続して活用し続けられるような、このまちの色になっていけばいいのかなと思います。サンプラザも結構昔からサブカル的なところで小さな演劇をやったりと活用がされているので、もし、サンプラザの建てかえとかすることになった場合にも、誰でも使いやすいようなところが、継続してそのまちと一緒に育てられるようなものであったらいいのかなと思っています。以上です。

○饗庭部会長

ありがとうございました。岡本委員は、何かございますか。済みません、学校の先生であてちゃうんで。

○岡本委員

大き過ぎてちょっと絞れないのですが。中野に世界の方たちに来ていただくのか、中野から世界に何かを発信していくのか。その辺が私もまだわからないのと、それからさっきの港区あたりみたいに大使館だらけの区と、目黒区みたいな外国人が多い区と比べると、中野はやっぱりそういう面ではちょっと中途半端な区かなと思うのです。だけれども、それなりにさっきおっしゃったように伝統文化だとかいろいろなものから発信していくと。

さっきの梅若能楽堂のとか、それから武田能楽堂というのはうちの町会なのです。だから、そういうことを見ると、世界に発信できるものというのはいっぱいあるのです。その辺が、本当に発信をしていくのか向こうからしっかりとこっちを向けて、それこそ中野に

向いてくれみたいな形で進めていくのか。その辺をちょっと絞らないと。ちょっとわからないです。目黒みたいにさんまで呼べればいいのですけれども。

○饗庭部会長

そうですね。ちょっと私なりの感想を申し上げると、これは割とこうあるべきという話がなさそうなテーマなのですけれども。何人かの方のお話を聞いていてなるほどと思ったのは、私も学生のとき中野に住んでいたのですけれども、要は東京に来て初めて住むまちが中野というパターンは結構ありそうだなと思います。それは、日本人が地方から出てきてというのがこれまでだったのだけれども、恐らく世界の国から初めて東京に出てきて住むところが中野みたいな位置づけが意外といけるかもなと思いました。港区の人たちは、大使館が用意した部屋に住むというような感じなので、あそこしか知らないで帰ってしまうわけですが、もうちょっと素手でというか、かばん1つでやってくる人たちがいるわけで、その人たちが中野に来て、中野で最初の生活を始めるみたいなのはいいかもしれないですね。大学に入るということもあるかもしれないですし、近所に住むということもあるかもしれないけど、そういう最初のまちみたいなことですかね。

英語で、アライビングタウンだったか、アライバルタウンだったか、そういう言い方をすることがあるそうなのですけれども、最初に到着したまちというような位置づけでいいかもしれないということですね。

あと、というか「まんだらけ」なのです、さっきおっしゃっていたのは。あれ、何であそこにあるのだろーと考えていたのですけれども、ブロードウェイのビルは、たしかできた当時は東洋一か何かの大きさでしたよね。でも立地がそれほどでもないのに、多分そんなに家賃が高くないところに、「まんだらけ」さんが、最初は1店舗だけつくって入ってきて、いつの間にか伸びたという話だと思うので、恐らくサンプラザの建てかえをしたら、ものすごく高い家賃の建物ができてしまって、多分そこからは「まんだらけ」は残念ながら絶対に生まれえないはずなのです。都市開発はそういうものだと思うので。

なので、見るべきは、多分周りだと思うのです。周りの割と家賃が安くてお得なところというのがあるはずなのです。中野の道路を渡った早稲田通りの向こう側とか。だから、そういうところに若いアーティストが入ってくるとか、演劇の人たちが本当に小さい劇場をつくってしまうとか。そんな動きが出てくるとおもしろいと思いますし、それを何か誘致するというと格好悪いので、自然発生的な動きを潰さないようにするとか応援するとか、何かそういうのができるといいのだろーなと思いました。

本当にお金をかけて再開発をやり、ルイヴィトンとかスターバックスが入ってきたものしかできないので、世界的な感じがするのだけど、別にどこにでもあるものになってしまうので、やっぱりそれはそれとして周りをちゃんと見ていくことが大事かなと思っていて、キッチンカーで御飯をつくっている状態って割ともったいなくて、やっぱりそれは店ができないとまずいと思うのです。ちゃんとしたお店に、帝京平成大学の道路を挟んだ反対側は杉並区だと思えますけれども、そういうところの住宅を使って、若い人がおいしい定食屋さんを作って学生が食べにくるとというのが一番健康かなと思っていて。

何かキッチンカーだともったいないですよ。キッチンカーっていつでもできますと言っているようなものなので。中野からいつでも、売れなくなったらいなくなりますよと言っているのがキッチンカーですから。やっぱり地域で定着するような商業者が、この周りに生まれてくるようなことです。さっきの「まんだらけ」と同じですけれども、そういう人たちが入ってくるような環境をどう整えるかというところがポイントなのかなと思いました。

割とアイデアがたくさん出たような感じですので、何か追加であれば少し。あと3分くらい時間はあるのですけれども、いただいて次の話題にいきたいと思います。よろしそうですね。

では、3番目の「地域のにぎわいの創出・再生」というところに参りたいと思います。最初のほうの説明で、私が理解したのは、どちらかと言うと西武線のほうだということですね。中央線のところではなく、西武線のほうの駅前の割と日常的な暮らしを支える商業のにぎわい。再生と書いてありますから、ちょっとあれですね。だめになったところもあるということだと思えるのですけれども、そのあたりの話に移っていきたいと思います。

それでは、また少しちょっと資料を横目で見ると時間を1分半ほど取ってみたいと思いますので、よろしく願いいたします。

(資料読み込み)

○饗庭部会長

いかがでしょうか。どなたかまた口火を切っていただけますと助かります。

○五味委員

いいですか。この地域というのは、中野区というのは、23区中で区の面積は狭い部類ですかね。ですけど、例えば、新井薬師だとか沼袋と中野駅前は違う、鍋横だとか中野坂上、あるいは弥生町行くと全然地域の特徴が違うと思うのです。こういうときにいつも考

えるのだけど、同じ中野区に住んでいて、町会連合会というのがあるのですね。町会連合会の会長さん達は、自分のところの特徴というのは会長ですからよくわかっている。あの人たちのやっぱり悩みというか聞く必要があると思うのです。町会連合会は、中野区では一番大きな組織ですから、やっぱりそのあたりの地元で悩みってかなり多い。地域性がいっぱいありますから。そのあたり行政のほうから何か発言があれば、一番ありがたい。地域の特徴あるところを取り上げて掘り下げていくといいと思います。

○饗庭部会長

地域の悩みごとみたいなのを、もうちょっと出していただいて。いいにくいということですか。

○甚野委員

鷺宮のほうから。西武線沿線のところはずっと踏切の問題が言われています。ちょうど僕が鷺宮駅周辺地区まちづくり検討会のほうも委員をさせていただいて、まちづくり構想をまとめさせていただいたのですけれども、やはり道が狭いとか、バス通りではあるのだけれども、渋滞し、朝の踏切は1時間のうちに10分あいているかあいていないかくらいとか皆様からの不満があります。鷺宮の地域の問題でお話すると、まずあかす踏切という話が出てきます。そこは、解消してもらうのに高架にするにしても、地下化にするにしても、交通事業は急いでやらしてもらおうねといったところがまず根底にあるので、この西武新宿線踏切渋滞解消促進期成同盟という活動をやって、みんなで何とかして早期解消をしてもらおうということでのいろいろな形で活動しています。

高架または地下化にするに際し、工事の為に線路を一時的に逃がす必要があるので、現状の線路のあるところの脇の土地を買って、線路を移して、本道のところを工事して、高架または地下化するわけです。そうすると、そのまちの形は大幅に変わるはずですが、せっかくやるのだから、いいまちにしてよといった思いがあるので、各駅ごとに地域で発足したまちづくり検討会というのがあって、それぞれの検討会でいろいろな思いを文章にしたためて、中野区へ提出しているわけです。都立家政も提出したし、野方も提出したし、鷺宮も提出したし、下井草も杉並区へ出ているとは思いますが。

鷺宮駅については、駅の周りに古い公団住宅があって、そこも建てかえしないとイケない話もありますが、搬入出に必要な道路がなくて、運び出せないということで、補助133号線という中杉通りに新しい新道をつくらうとしてはいるのですが、土地の買収が進んでいないところもあるようです。補助133号線の工事にプラスして鷺宮駅も一緒にやっ

ていくのかなと思っているところです。

とはいえ、それをやる時に、まちの地域のにぎわいといったところで、一緒にその鷺宮駅の周りでいろいろなお祭りとかがあったりとかしますし、あと、地域商店は大分力を落としてきてはいますが、まだ残ってはいるので、そういったお店で買えるようなところを増やして欲しいというのが、地域の声としては上がっています。ほとんど地域商店で生鮮三品とかも買えなくなってきたので、買えるような駅周辺になってほしいなど。

鷺宮駅は西武新宿線の急行の停車駅でもあるので、そこを活用して都心に通われている人たちが途中でおりて、ちょい飲みでまちにお金を落としてもらうとかすれば、まちのにぎわいも少し増えてくるのかなという話も出ていました。

○饗庭部会長

ありがとうございます。なかなか地域課題が違うから切り込みにくいですか、話としては。皆さん、ご自身の住んでいる地域の問題をちょっと言っていただきながら、想像していただきながらお話しいただくほうがいいですか。全体がちょっと誰も俯瞰できていないようなので。

○甚野委員

西武線に限らず、これ例えばなのですけれども、その地域のにぎわいの創出・再生といったところで、まちのお祭りであるとか、広い意味で言えばですよ。どうしたらいいのとか、こんなふうにしたらいいよというのを踏まえて、話をしてもらったらいいのではないですか。

鷺宮だと、地域のお祭りとか盆踊りとかやっているの、それを継続して、地域の踏切問題とかいろいろ土地が変わっても学校を活用したお祭りとかは、地域みんなで一緒になってできるような活動を継続してやれるようなところに、区とかも一緒にタグを組んで一緒に地域を盛り立ててくれるようなことができればおもしろいと思っています。

○鈴木委員

私も西武線の沿線にいないものですからちょっと話がしにくいのですが、ただ、すごくよかったなと思うのは地下化したということだと思うのです。これ当然南北の道路が平面でつながっているのです。ところが、東中野の辺だとそれが線路で遮断されてしまったのです。これはまちが完全に分離されてしまうのです。

私たち東中野でずっと生まれ育っているのですけれども、私は東中野駅中央線南側に住んでいる者なのですが、中学は三中でしたから北側です。昔は本当に真っすぐ行けたの

ですけど、今は踏切がなくなって、そこで完全に遮断されて、駅の階段を上がって渡線橋で向こう側に行くか、あるいはバイパスがあって、これアンダーパスのところがありますから、そこから行くかしないかだめ。そうしますと、若い人は、目的がある人はそれでも行くのでしょけれど、高齢者は絶対行きません。

ですから、やはりまちの活性化というか商店街が、いわゆる東中野の名店会とか共栄会が、昔は盆踊りもやったし、歩行者天国もやった場所なのです。それが完全になくなってしまった一番大きな理由は、やはり南北合流ができなくなったことに尽きると私は思っています。ですから今回、西武線に関しては、地下化。もちろん高架でもいいですけど、いわゆる人車が通るところは平面で行けるというのが重要なポイントだと思います。

○饗庭部会長

ありがとうございました。吉村委員、お願いします。

○吉村委員

近くとすれば沼袋の周辺が近いところになるわけですけども、当然そこについては南側に広場ができて、あそこで道路の拡幅なんかもあるので、中野と沼袋との間で、何か交通の手段ができてくることの期待性がすごくあります。

もう1つは、北側の商店街のところはどうも拡幅をしてという話で、商店街がどうなってしまうということもありながら、でも、最後そのところを今、一方通行の道ですけども、それを両方にするということもあるけれども、どうやってその商店街を守りながら通過交通みたいものをなくしていくみたいなこともすごく必要だと思うのです。あえて、それはバスなんかはデマンドバスで、お店の前でとまってくれみたいな話ぐらいはしてくれるというのが一番いいと思うし、それから、あえて線形なんかも直線ではなくて、できればうねるような形とかハンプがあってスピードが出ないとか、そういうことをしていかないと、やっぱり先ほども出ているような安全なことなどがなかなか難しくなってしまうのです。坂なのです、あそこ。ですから、なかなか上からがと来るとなると、両面だったときにちょっと不安が残ってくるかなというところがありますね。

あと、もう1点は、鈴木さんがおっしゃったように、地下になったことによって、上空が残ったということで、それは権利が西武が持っているのでしょうかけれども、どれだけそこが公共として使えて、バスなのか、それとも大和のような、相鉄のようなやり方にするような工夫にしたらいいですね。それから小田急がやるような、何か畑みたくするよということも出てくるかもしれないですから、その可能性はあるし、一番いいのはニューヨー

クのハイラインみたいな、人がずっと歩いていける、パスがずっとあってそのところをずっと歩けるよねというところが出てくると、なおさらにぎわいなんかが出てきて、もしその横側のところで、さっきのスタートアップとは違うけど、店になったり、それから若い者がいるとか、それから食事ができるようなカフェがとなってくると、おもしろい工夫になっていくと思います。可能性として、それは描いていけることでもいいのかなと思うわけです。

あと、もう1つは、それぞれの地域に特色があると思うのですが、やはり地縁といいますか、地のつながりというか地場のつながりということが、多分もう一度再生する話としてやっていくのだらうと思います。それは、何かお祭りみたいなこともあるのかもしれないけれども、どうも昔のコミュニティとか、そういったつながりが嫌だからみんな出てきた人がいるのだけど、結局はどこかで欲しがっているところがあるのです。ですから、コミュニティという言葉としてあるのかどうかわかりませんが、それをもう一度再生できるようなことが、中野のやり方として何かできるといいのかなと。

例えば先ほどの懐の広さみたいなところが中野のキャパシティみたいなところがあって、いろいろなところをやることに対して、応援してくれるとかつながっていけばいいのかなと思うのです。そうすると、当然第一の部分として家族があって、ほかのところで仕事の関係があるかもしれませんが、もう1つ違う3番目の空間みたいな、サードプレイスみたいなところが生まれてくるというのも、これから先の、やはりこういったにぎわいとか、人のつながりの中のところにつくっていけるようなことがやれてくると、もう1つおもしろいことができてるのかという気はします。以上です。

○饗庭部会長

ありがとうございました。

○佐土原委員

今いろいろお話になったので、この地域に住んでいる人の地図を見ると、やっぱり高齢者が多い。比較的多いという状況を考えますと、今の商店街の話とか、あるいは平らなところでちゃんと移動ができるとか、地縁の関係でコミュニティをしっかりとすることでも今、いただいているような意見がやっぱりこの地域に住んでいる方の特性としてもすごく重要なことこの地図を見て思いました。

○饗庭部会長

ありがとうございました。

○吉原委員

追加で。今のコミュニティのところ、地域のにぎわいといったところで、コミュニティもそうなのですが、その活用のところで、例えば、空き家とかの活用で、そのところで、例えば、子どものプレイパーク作ってあげたりとか、そのところでおじいさん、おばあさんが面倒みてあげられたらとか。そういったものが、地域でうまく回せているという形であると、またおもしろいのかと思っています。

高齢化のところ、やはりどうしても引きこもってしまう。先ほどの岡本さんの話でお亡くなりになるといったところもあると思うので、そういったところが出て歩いて、ちょっとお茶飲みができるような、そういうところの活用であるとか、そういったことがうまく地域の中でできるようなことを区が後押ししてくれると、何かおもしろいのかなと思いました。以上です。

○饗庭部会長

ありがとうございます。

○岡本委員

よろしいですか。今のお話で、私も町会連合会の常任理事をやっているものですから、深く中野区のこの町会の東西南北の地区、それがやっぱり地域センターの職員の方たちも一緒になってやっていただいているのです。今、各地区とか町会で、コーヒーサロンとかいろいろなもので、みんな場所があいているところがあれば考えて、その地域から来られる方、お年寄りの方たちが集まりましょうとか、500円喫茶とか300円喫茶とか。それから、ケーキつきで200円とか。各町会考えて、今、かなりそれが推進されています。それに対して助成金は若干出るみたいですし、うちの地域の町会は出ていませんけれども、色々とやっぱりふえてきております。

ただ、町会としてのにぎわいですとか、いろいろな角度で考えて、毎年本当に四季の森等々でいろいろなことをやっているのです。あと、何と言っても、地域というのは、昔の日本の伝統だとお祭りなのです、神社との。だけど、最近はそのお祭りでみこしを担ぐ若手がいなくなっている。幾つかそれによって問題が出てきているところがあります。

だから、一町会ではできなくなって3つ、4つ連合みたいな、本当に連合みたいな形で、中野坂上なんか9町会が連合としておみこしを9機出して、それによって、みんならばっていた方たちが中野の地元に帰ってくると。それこそ、ふるさとに帰ってくるというのがやっぱりお祭りかなと思うところがあります。地域のお祭りをもうちょっと地元で

も考えていかないといけないと思います。

○饗庭部会長

ありがとうございます。

○興梠委員

お話も結構出尽くしている感じなのですが、私の地元は新井薬師駅前なのと、なかなかあかない中野通り沿いにおりますので、そういう意味では、本当に大きく変わるチャンスが、地下化によってできるということではあるのですが、西武鉄道さんが線路の跡地をどう活用するのか、させてくれるのかあたりで大きくまちが変わると思います。変わるいいチャンスなのですがけれども、そこにどれだけ地元住民も含めて、中野区の要望が入っていくのかというあたりが一番の要かと思います。これまでの議題でも出てきたような、いろいろな活用ができる土地がせっかくできるので、人が集まる、にぎわいが創出できるような活用ができるといいというのがあります。

新井薬師の商店街については、補助220号が整備されると、バス通りではなくなるかもしれないという話も出ており、今から目玉になるような、呼び込めるような何かをそこにつくっておかないと、そこ自体に商店がなくなってしまうという危機感があります。

コンビニもそんなにたくさんあるわけではない地域で、あまり外出が得意じゃない高齢者の方たちの日常の買い物というと地元の商店街というのが本当は生き残ってほしいというところもあります。そこを何とか活性化できるような支援が中野区としてできないかとは思っています。

○饗庭部会長

いえいえ、わかりました。

○岡本委員

ちょっと1点だけよろしいですか。中野区が街路灯LEDが一番早かったのですよね。それから、もう1つは、小学校、中学校のエアコン、これも防災のための避難場所のために、中野区が東京の中でも23区の中で一番早く設置をスタートしている。にぎわいって地域の中でどんどんやっていくのもそうなのですが、もうちょっと広報関係をうまく使っていったら、もっと違ってくるかなと思います。

○饗庭部会長 広報関係。

○岡本委員 住民に、中野区民にそういうことの広報をもうちょっと区のほうで徹底して、あんなにすばらしいことを中野区はやっているのだみたいな。どこの区よりも先駆けてと

いうのと。

あと、小さい区ですからごみの問題もありますけれども、これはずっとつきまとうと思って、地域で何とか解決していくしかない問題だと思うのですが、ごみの問題。このにぎわいと並行して。

だからもうちょっとPRをしっかりと区民に対する、強力にやっていったらどうかと思います。

○饗庭部会長

ありがとうございました。私はまだやっぱり問題がつかめていないのですけれども、お店が足りないのですか。足りないというか、私、八王子に住んでいて、もっとどうしようもない田舎の仕事もいっぱいしているので、そういうところでコンビニが全くないという話はよく聞くのですけれども、中野でコンビニが歩いて行けるところがないという状況が本当にあるのか。あと、空き店舗が出て、その後、永遠に空き店舗なのか。地方の中心の商店街は永遠に、10年くらい空き店舗が平気であるのですけれども。単に、2週間前にあいて、3週間後に別のがオープンするというだけの状態を見ておられるのか、ちょっとわからないのです。中野がその状態だと日本はやばいと思ったのですけれども、どうなのでしょう、実感としては。

○興梠委員

うちの地域でいくと、まず北口商店街のほうですと、飲食店は何とかやっぺらっぺらな感じなんですけど、魚屋さんだったり八百屋さんだったり本屋さんだったりというのは、ほとんどなくなってしまっているんで、いわゆる日常の食事をするための食物を手に入れるとか、そういったことが皆無ではないのですけれども、ただ、バスに乗って買いに行かなければいけないくらいの感じで、もしくは自転車。だから、バスや自転車に乗れる人たちにとっては、それは問題ないのですけど。田舎よりは多分恵まれているのですけれども、高齢者でなかなか自分でも買い物はほんのちょっとのところにしか行けないという方にとっては、ちょっとつらいことになっているという話題が出ます。

特に坂が多いので、うちのほうは。です。その辺も相まっているのです。コンビニもないことはないのですが、行くまでに結構大変なエリアもあるということです。

○饗庭部会長

わかりました。物すごいところをいっぱい見ているので、知見を申し上げておくと、例えば、八王子の私が住んでいるところは多摩ニュータウンの奥で、そこですら、例えば生

協の宅配サービス3社が、週に3日頼めば来てくれるのです。アマゾン頼んだら翌日にくるといことで、生鮮三品に困ったことがないのですけれども、中野はもっと便利なのではないかと正直思うのです。

○甚野委員

確かに物を買うとか集めるといったことに関して、物流であるとかは、多分同じように生協さんだったりとか東都さんだったりとか配達をしてくれるところもあるので、物が揃うというのは、家から出ないで揃うことができるのです。ただ、コミュニティとかにぎわいと言われるところでお話すると、出て歩いて会話をするとか、多分そういったところにつながっていくのではないかなと思っています。お店と一緒に買いに行くであるとか、駅前に。物を揃えるというところだけなのですけれども、多分そういったことができるような場所が欲しいのではないかなと思っていて、買い物に行くであるとか、そこで会話をするとか。そういったために、そういうお店があったらいいなという思いがあるのではないかとはいいます。

○饗庭部会長

わかりました。

○甚野委員

ただ、コンビニがないわけではないです。その部分で言うと、コンビニは、鷺宮あたりだと、100メートル、200メートルに1軒くらいずつはあるので。

○饗庭部会長

商売の世界は大きな流れがあって、基本的に、要はレストランとか、あの人の料理がおいしいみたいなどころは何とかなるのですけれども、生鮮三品とか最寄品といわれる文房具とかそういうのというのは全部ネットで買えるというのは、今の大きい流れですね。

だから、中野はまだ多分ご近所が残っているのにぎりぎり残っているかもしれないのですけれども、地方都市は壊滅しています、そういうものは。ですので、そこはどうやっても戻らないのです。アマゾンに勝てないので。

それで、コンビニだって、昔は商店街の敵だったわけで。あれができると、商店街を潰してしまっただけから。だけれども、今はコンビニがあればいいということになっているので、コンビニに頑張ってもらえないのかなと思っていて。それは、コンビニがあるから商店街が潰れているので、商店街がなくなったことを嘆くのはよくわからないのです。コンビニがあるのに。というか、コンビニを皆さん使っているでしょうという話になってしま

うので。だから、そこで商店街がないことに対して、中野区がどれくらい頑張らなければいけないかが、私、わからなくて。どういうふうに基本構想なりに、そういうことを書いていくかということ……。

○鈴木委員

もちろん、そういうことなのですが、一番問題なのは、商店街を形成している建物があって、ビル化されていて、1階の店舗がオーナーさんが年をとってしまって、後継者いないからやめてしまってシャッターを閉じた状態。それをもし貸してくれれば、ほかの人がやってきてお店を開くことができる。つまり商店街としてのにぎわいを構成するのに、せっかくあるものが活用されていない。その事実があるということです。

ですから、むしろ、例えば、1階の店舗、昔のつくりだから1階とその店舗が入って、住宅の部分もあるのかもしれない。そういったものも分離されるような工夫をすれば、それはコンサルしてあげれば、多分商店街も今、シャッター化されているところも賃貸として出して、お店が復活する可能性があると思います。

特に飲食店。東中野なんかは家賃が安いですから、飲食店として出したい人はたくさんいるのです。でも、オーナーさんがへたな人入れると、後で問題になるのが嫌だから、私が生きている限りはやりませんという人がほとんどなのです。

○饗庭部会長

基本構想は多分みんなのものだと思います。それは区民の問題ですよ。区の問題ではないですよ、貸せないのだから。

○鈴木委員

でも、それを仕組みとして、そのまま閉鎖した状態にするよりも、ちゃんと話をすればできるのではないですか。

○佐土原委員

ちょっといいですか。商店街の機能をどう捉えるかということだと思います。ただ、物を売るということだけではなくて、やはり商店街があるということは、先ほど話をする機会があるとか、あるいは子どもが育つときに商店街の場でいろいろなことが体験できるとか。そういう意味で、物を売り買いする機能だけではない商店街が持っているよさを、これから失われていこうとしているところで残す方向で頑張るかどうかということだと思います。

○甚野委員

店舗の活用方法はいろいろあると思うのです。商店にするというやり方もあるだろうし、例えば、ギャラリーにして子どもたちがつくったものを展示するであるとか、先ほど言ったカフェサロンの一時的な場所であるとか、雨が多いときだったら、ちょっと休憩場所でベンチでも置いときますからとか、そういうことでもいいのかもしいかなもしれないです。ただ、シャッターにしておいて、そのまま何も使えない状態にしておくのはもったいないという思いもあります。景観上の問題もは出てくると思うのです。

いろいろな活用の仕方はあるとは思いますが、その地域に合った、すごくふわっとした言い方になってしまいますが、使い方というか、地域に合ったにぎわいや、使われ方を考える必要があると思います。みんなが快適で魅力ある住環境の延長線上にある地域のにぎわいがそこで創出されていくと、まちの中がきれいに輝いているような、イメージや中身が出てくるのかと思いました。

○鈴木委員

ちょっといいですか。やっぱり商店というのは、コンビニなんかは全くのマーケット調査で、あの人たちは出店するわけです。ですから、こっちが例えば、パン屋さんにちょっとしたパンを買うのではなくて、そこにコーヒーがあったり、立ち飲みでもいいからそういうコーナーが欲しいとか。そういうものをつくれれば、まちのにぎわいは大事ですよ。物を買うだけではなくて、そこに何か1つのたまりができる。そういうのがまちづくりだと思うのです。

ですから、そういう場。前に大型店舗法だとかありまして、そういう店舗のあり方というのは法律で決まったのですが、何か中野区独自のそういったまちを、マーケットで出店する人に対してこういうことは協力してくれというような、何となくそういうものをつくったほうがいいのではないかと思います。

中野の住民の人が、出店するから、自分の土地を貸したりビルの一画を貸したりということだけではなくて、全体の地域を考えたやり方を、ぜひ出店者には協力してくれと、何かそういった商店街連合会でもいいですから、そういうところが具体的にこういうのをつくってもらうように頼むということでない。

今、中野区は全部マーケットは全て、店は出店する人と稼ぐ人だけの考え方でできていますから。そうではなくて、もっとゆとりを持ってくれということは、出店する人に対して、中野区の商店街連合会だとかそういうものも一緒になって、こういうちょっとしたしゃれた店をつくってくれというのを要望する具体的なそういうものがなければまずいと思

うのです。

○饗庭部会長

という具体的なアイデアも出てきたところくらいで、きょうは閉めましょう。多分結論は出ないというか、もうちょっと先にもう一度議論できればいいかなと思います。ありがとうございました。

済みません、ちょうどいい時間に、予定していた時間、8時50分ごろになってしまいましたので、一旦この話題はここで切らせていただいて、少し事務局のほうでまたまとめさせていただいたものが次回出てくるというようなことでやらせていただきたいと思います。ありがとうございました。

では、次回も引き続き2つテーマが残っておりますので、「災害に強い都市」と「地球にやさしいライフスタイル」を審議したいと思います。今回は2つだけですので、それも踏まえて少し横串で5つ並べてみたときどうだという議論も時間があればできるとよろしいかなと思います。

それで、次回につきましては次第の一番下に日程が書いてあるということですので、5月23日木曜日の19時からでよろしいでしょうか。ご予約いただいているかと思っておりますので、場所は区役所の中ということでございます。またお手紙が行くのですよね。お手紙を出すということでございます。よろしく願いいたします。

では、事務局からほかに連絡事項などございましたらと思いますが、いかがでしょうか。

○永見基本構想担当課長

今、部会長からもお話がありましたが、開催通知、もし追加の資料とかがあった場合に、郵送で現在お送りしているところではありますが、メールでの送付を希望される方がいらっしゃいましたら、この後、終わった後に事務局の職員に申しつけていただければと思います。それから、今日お車でお越しになった方はいらっしゃいますでしょうか。いらっしゃらないようなので結構です。

○饗庭部会長

では、事務連絡は以上ということでございますので、本日はこれで閉会とさせていただきます。きょうは皆さん、ご協力ありがとうございました。次回もよろしくお願いいたします。

— 了 —